

## 平成 19 年度第 2 回日本物理療法学会評議員会議事録

日時：平成 19 年 10 月 13 日（土）12:15 - 13:45

場所：福岡リハビリテーション専門学校

出席者（敬称略）：

会長：川村

相談役：嶋田、中山、柳澤

副会長：杉元

評議員監事：武政、濱出、山本、木村

機関誌編集委員長：菅原

評議員：青木、太田、日下、日高

事務局長：内田

前大会長：吉崎

次期大会事務局長：平賀

事務局：米津、高木

欠席者（敬称略）：

副会長：両角

評議員：中屋、藤原、山元、古谷、佐藤

選挙管理：岡崎、滝本

### 1. 報告事項

第 14 回日本物理療法学会学術大会についての報告（吉崎前大会長）

- ・ 参加者 225 名
- ・ 新企画の報告（褥瘡対策シンポジウム / 全国脊髄損傷者連合会 東北ブロック 福島県支部との双方向の講演 / 市民講座）

予算報告（内田事務局長）

- A) 第 1 回評議員にて、雑費への予算枠の拡大。繰越金 1,110,362 円のうち、110,362 円を雑費として計上したことを報告し、承認された。
- B) 学術大会運営費について
- ・ 第 14 回学術大会運営費は、30 万円で決算されているが、今年度第 15 回の開催地福岡では、15 万円のみでの運営費である。条件は同じであるが、金額に何故違いがあるのかと質問された。（中山相談役）
  - ・ 平成 14 年度第 2 回評議員議事録を確認（日高評議員） 平成 15 年度予算について、

「学術集会の運営を機器展示や収容人数の関係上、担当校校舎以外の会場で行うことが今回を含めて、今後も考えられる為、これらを加味して現行の事務局雑費 10 万円と会場費 10 万円を合わせ、さらに増額して、会場設営費として来年度以降 30 万円の予算」が承認されていることが報告された。

第 15 回学術大会に対して、諸事情により、広告・賛助などのご協力を差し控えたため、後日、運営費を追加し、合計 30 万円の会場設営費とするところが承認された。(抄録費予算枠 5 万円、会議費 10 万円別予算)

また、次回評議員会までに、学術大会のマニュアル CD - R を参考にし、会場運営費に関するマニュアルを作成する方向で承認された。

#### 第 16 回 次期学術大会に関する報告と検討(山本評議員監事)

- ・高知リハビリテーション学院 平賀康嗣先生が事務局長を担当することが報告された。
- ・日程の検討を行い、平成 20 年 10 月 4 日(土)午後～5 日(日)で開催することが承認された。
- ・会場：高知市文化プラザ かるぼーと 2F 小ホール (高知市)《予約済》
- ・特別講演などについての詳細は未定。

#### 学会誌に関する報告(菅原編集委員長)

- ・例年より遅れ、7 月発送を行った。
- ・最近の傾向として、投稿数減っている。身の回りの人への投稿依頼への声かけを依頼した。

#### 平成 19 年度 上半期における新規入会会員数および会費収入状況(内田事務局長)

- ・総会員数 313 名(新規入会者 17 名)
- ・入金率 38%(昨年度 48%)

## 2. 審議事項

### 賛助会の年間費金額設定について

- ・現在 3 万円であるが、5 万円に設定することは可能かどうか。会費の納入状況が不十分なため、賛助会費の値上げの検討を行いたいと報告された。(内田事務局長)
  - ・他の団体に比べて、この学会の金額設定は低い。急に値上げするのではなく、5 万円から徐々にであれば、問題ないのではないか。(太田評議員)
  - ・30 学会程度の団体に会員として入っているが、最低金額設定である。(青木評議員)
- 来年度より賛助会員費 5 万円に変更することを承認された。(理由付け必要)

日本物理療学会主導の物理療法に関する他施設共同研究による基礎および臨床物理療法データの集積について（別紙）

- A) JAPTED 実施に際するワーキンググループを各地域に 9 カ所の設置予定。加えて、木村評議委員監事にもワーキンググループへ参加してもらうことになったことを報告された。（川村会長）
- B) JAPTED を実施する際に必要な機器とそれに対する予算案の確認
- ・ 各ワーキンググループに PC と通信（光通信または、ADSL）WEB カメラ（200 万画素程度、1 万円程度）× 12 台（各ワーキンググループ + 木村評議委員監事 + 事務局 × 2）で、15 万円の予算を計上していると報告された。（米津事務局員）
  - ・ マニュアルに関しては、JAPTED にアクセスすれば、観覧が可能であることと、木村評議委員監事は、すでに WEB カメラを持っていると報告された。（木村評議委員監事）
- C) JAPTED の進行状況についての報告（木村評議委員監事）
- ・ システムが完成し、下半期からスタート予定である。腰痛プロジェクトからスタートする。小児分野からも申し入れがあることが報告された。
  - ・ 今後、整形外科疾患（変形性膝関節症など）の対応も可能だが、評価項目をきちんと決定した上で、フォーマットを組むことが必要である。また、end point についての問題があり、循環器の end point は、医師が行う評価であり、患者の同意の他、協力医療機関の医院長の同意が必要になるなどの問題が出てくると報告された。

企業および養成校からの研究助成（案）について

- ・ 学術的な支援を本部で行う必要があるのではないか。その支援の中で、企業および養成校ができる協力は惜しまない。（濱出評議委員監事）
- ・ 企業として、現在、各大学などと共同研究を行っている。エビデンスの蓄積などのメリットがあるのであれば、協力したい。企業および養成校からの助成金を本部で、研究基金とし、研究者へ分配する方向でよいと思われる。（青木評議員）
- ・ 助成タイプからの検討
  - i. 研究テーマを指定し、参画する研究者に対し、助成を行うタイプ
  - ii. 研究の功績がよかった研究者に対し、助成を行うタイプ（お礼と、研究の継続のための助成として）企業からの立場では、 を推奨。
- ・ 助成を受けた研究に対して、学会会誌への投稿義務を追加したらどうか。

学会本部として、具体的なルールや案を上げ、検討する。

第 17 回 次々回学術大会開催地に関する提案

- ・ 第 1 案：信州大学

開催は難しいと報告された。(木村評議員監事)

- ・ 第2案：兵庫医療大学(日高評議員)  
音響設備やスタッフの人数不足が予想される状況であると報告された。
- ・ 第3案：国際医療福祉専門学校七尾校(濱出評議員監事)  
第2案が難しいのであれば、引受けると報告された。

第2案に関して、次回の評議員会までに検討する。

EPA(Electrophysical Agents)ミーティングについて

- ・ EPA ミーティングの概略について報告がされた。(第1回 WCPT inバンクーバー報告含め)(木村評議員監事)
- ・ 2009年アメリカ、2011年アムステルダム(WCPT同時)開催予定。2013年を日本での開催依頼を受けたことを報告された。
- ・ 日本の参加について、部会と学会が1つの組織として活動していく方向であることが報告された。(嶋田相談役)

2013年の日本での開催については、今後検討する。

その他

A) 学術大会にて、企業展示に参加する社員数の制限(学会参加費不要人数)について(杉元副会長)

- ・ ある程度ルールを作ったほうがいいのではないかな。
- ・ 第14回大会では、社員数2~3人であった。(吉崎前大会長)
- ・ 地域との関係を大切にするのであれば、制限する必要はないのではないかな。(濱出評議員監事)
- ・ ある程度ルールを作っていきましょう。(嶋田相談役)
- ・ 業者としてもネームプレートがない状態で、出入りするの、あまりいいことではないので、人数を決めて、ネームプレートを渡すというルールがあったほうがいいのか(杉元副会長、武政評議員監事)

ルールについては、何案か事務局で検討し、後日、評議員へメールを送る。承認され次第、記録に残すことが決定された。

記録者：高木峰子